

【水の里の旅コンテスト2019 応募企画】

【学生部門】

就実大学経営学部経営学科 八巻ゼミ

『直島の水と伝説を巡る旅 お魚満天ツアー』

(観光地域：香川県 直島町)

【日程】	1泊2日		
【実施時期】	通年		
【催行人員】	6名(最少催行人員：2名)	【お勧めする旅行者層】	アートの直島しか知らない旅行者 長期滞在旅行者
【旅行代金】	【内 訳】		
		小型貸切バス：6,000円 フェリー代：580円 三菱マテリアル株式会社直島製錬所見学へのバス代：200円 宿泊(旅館志おや)：9,000円 1日目昼食代(ゆうなぎ)：1400円 レンタルサイクル：1,000円 小型漁船での釣り体験：5,000円 語り部による案内：1,000円	
	24,180円 (大人1名)		
【企画趣旨(伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント)】			
直島は、香川県と岡山県の間瀬戸内海に位置する人口約3000人の島で、少子高齢化が進み人口は年々減少していますが、近年瀬戸内国際芸術祭が開催されアートの島として世界中から観光客が訪れています。また島には製錬事業を行う三菱マテリアル株式会社直島製錬所と、株式会社ベネッセホールディングスによるベネッセアートサイト直島の2大産業が経済を支えています。 直島は川がない島でありながら、島の産業は水を必要とし、生活水は岡山県玉野市から海底導水管を通り水が送られています。水と島の暮らしを考えていく上で水の大切さ、水との関わり方を知るために、本ツアーでは、送られてきた水をためる受水タンクの見学、水を使用する産業の見学として、三菱マテリアル株式会社直島製錬所の工場を見学します。 2日目は、水との関わりとして、島の産業の1つである漁業の船釣り体験を行います。実際に自分で釣った魚は、昼食として直島の塩(SOLASHIO)でいただけます。また、昔から残る地域資源を考えた際に、保元の乱で敗れた崇徳天皇に関する神社や島に昔から伝わるそうめん川などの直島伝説が残っていますが、現在これらを知り、伝えて残すべき語り部がいなくなりつつあります。環境・アート以外の直島の地域資源について理解を深めて貰うために、崇徳天皇や応神天皇所縁の神社、かつて島にあった高原城、住民も恐れて近づかないそうめんばあが出たとされるそうめん川の伝説が残る場所を巡ります。直島伝説の中でも島の人が一番知るそうめん川の伝説は、そうめんばあやタヌキ、高入道などいろいろな説があります。 以上の点から、直島についてアートだけではなく、三菱マテリアル直島製錬所やダム・船釣り体験・語り部によって案内してもらうことで島に伝わる伝説を知ること、直島の持つ魅力を知ってもらえるツアーとなっています。			
【安全確保のための配慮】		【旅行者の満足感を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】	
① 地元を知り尽くしたガイドの同行 ② ライフジャケットの使用 ③ 観光ルートの確認(マップ配布) ④ 緊急時連絡体制の確保		① 地元の魚料理を味わうことができる ② レンタルサイクルを利用して島の景観を楽しむことができる ③ 小型漁船に乗って釣りをを行い、自分で釣った魚を食べることができる ④ 地元を知り尽くしたガイドに島を案内してもらえる ⑤ 島の歴史や伝説を知ることができる ⑥ 参加者には直島の塩(SOLASHIO)をプレゼント	
【インバウンド対応のための工夫】			
通訳できる語り部の同行 多言語表記マップの配布			
【企画協力(後援)機関・団体名等】	【主な役割】	【企画協力(後援)機関・団体名等】	【主な役割】
①NPO 法人 直島町観光協会	情報提供	⑤直島町観光ボランティアガイドの会	島の案内・説明
②三菱マテリアル直島製錬所	工場見学	⑥ゆうなぎ	1日目昼食
③旅館 志おや	宿泊先	⑦玉野市役所建設部水道課(予定)	直島配水池見学
④直島漁業協同組合(予定)	漁船での釣り体験		
【催行実績】	有		

【 行 程 表 】

<p>1日目</p>	<p>9:30 宇野港に集合</p> <p>9:45~10:15 玉野・直島配水池 直島の生活水の出発点を実際に見学します。</p> <p>11:00~11:20 宇野港ー宮浦港</p> <p>11:30~12:30 受水槽、住吉神社 玉野市から送られてくる水を受水しているタンクを見学します。</p> <p>12:30~13:30 ゆうなぎ（昼食） 直島産の特大ヒラメが味わえます。</p> <p>14:00~14:30 直島ダム 三菱マテリアル株式会社直島製錬所で使用されている水の出どころを訪れます。</p> <p>15:00~16:30 三菱マテリアル株式会社直島製錬所見学</p> <p>16:00 旅館志おや 地元の旬な魚料理が自慢の旅館です。</p>
<p>2日目</p>	<p>8:30 旅館志おや</p> <p>9:00~13:30 積浦・船釣り・昼食 マダイ・ハマチ・アオリイカ・メバルなどを船釣りして、昼食に釣った魚を直島の塩(SOLASHIO)でいただきます。</p> <p>14:00 積浦港で語り部と合流</p> <p>14:00~17:00 崇徳天皇神社・そうめん川・護王神社・高原城址跡・八幡神社 語り部の案内の元、島に伝わる直島伝説を巡ります。</p> <p>17:35~17:55 宮浦港ー宇野港</p> <p>18:00 宇野港で解散</p>

【 主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来、土産品など） 】

【 ポイント1 】



ゆうなぎで提供しているヒラメは、全国でも数件しか行っていない紫外線殺菌による養殖で育てられたヒラメです。店の自慢の一品として、ヒラメ一尾を使った唐揚げ定食が有名です。ゆうなぎが提供するヒラメ料理は直島地元の能見海岸で育てられたヒラメを使用しているため、いつでも新鮮なヒラメ料理を食べることができます。新鮮なお刺身や、味が染み込んだ煮付けなども美味しいお店です。

【 ポイント2 】



大正6年に設立されて以来、島民の7割が三菱マテリアル直島製錬所の関係会社で働いている島の主要産業の見学ツアーです。年間20万トン以上の電気銅を生産、貴金属の回収、リサイクルを行っています。島の2大産業の1つである製錬所で、目の前で製錬工程を見学し、純金塊に触れ、島でありながら水を必要とする産業を見学することで、島での水の重要性を知ることができます。
(写真提供：三菱マテリアル株式会社直島製錬所)

【 ポイント3 】



築35年、母屋は60年のしみじみとした風情のあるお宿です。裸足に木綿の服が似合う昭和っぽくつろぎたい家となっています。夕食には地元で獲れた自慢の旬なお魚料理中心、お漬物から女将さん手作りの滋味溢れる「いなか料理」を楽しむことができます。また、宮浦港の近くにあるため、夜に港周辺を探索することもできます。

【 ポイント4 】



直島ではハマチや海苔の養殖が盛んに行われています。小型漁船に乗って海へ出て、漁業体験を行います。自分で釣った魚は調理してもらい、昼食として自分で釣った魚を直島の塩(SOLASHIO)で食べることができます。自分で釣った魚を食べることで、釣りをした事がない人でも釣りの楽しさを知り、瀬戸内海の魚介について理解を深めることができます。

【 ポイント5 】



直島伝説には、島民でも恐れて近づかない場所に今でも残る「そうめん川」があります。そうめんばばあが人を襲い、腹を割ってそうめんを川で洗って食べた、たぬきや他の動物、妖怪・高入道ではないか、とも伝えられています。数十年前まで目撃例があり、50-60年ごとに犠牲者が出ているともいわれています。現在は、川があった名残として小さなため池があり、お地蔵さまが祀られています。

【 ポイント6 】



保元の乱で敗れた崇徳天皇が讃岐へ流された際に、直島を訪れたとされています。「直島」という島の名称も島の人の心が素直だったからと崇徳天皇が名付けたと伝えられています。島には崇徳天皇ゆかりの地がいくつかありますが、そのうちのひとつで崇徳天皇が祀られています。高台からは積浦漁港を見渡すことができます。開けた場所には、昔子ども相撲を行っていた土俵の跡があり、島民の暮らしが垣間見えます。